およぐひと

萩原朔太郎

内容理解 次の各問いにそれぞれ答えなさい。

1 「およぐひと」（二八八・1）の感覚として、この詩で表現されているものを次の中から**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア 聴覚　イ 内部感覚　ウ 視覚　エ 日常感覚

□

2 「およぐひとの心臓」（二八八・3）、「およぐひとの瞳」（二八八・4）とあるが、「心臓」「瞳」をそれぞれ「こころ」「め」と読ませているのは、どのような理由によると考えられるか。適当なものを次の中から**一つ**選んで記号で答えなさい。

ア 「ひと」のものであることを強調するため。
イ 漢字の意味と平仮名読みの意味の両方を示すため。
ウ 臓器や機能そのものではなく、精神性を示すため。
エ 想像によるもので、現実の世界ではないことを示すため。

□

3 「心臓はくらげのやうにすきとほる」（二八八・3）とは、どのような様子を表現しているか、説明しなさい。

4 「瞳はつりがねのひびきをききつつ」（二八八・4）、「たましひは水のうへの月をみる。」（二八八・5）とあるが、「瞳」が「ききつつ」、「たましひ」が「みる」とはどのようなことか。次の空欄にあてはまる語句を後ろの語群からそれぞれ選んで記号で答えなさい（同じ語句を何度使ってもよい）。

本来は「瞳＝目」で［①　　］ことをし、耳で［②　　］ことをするが、「およぐひと」の［③　　］が、まるで海水に溶けているように海と［④　　］となって泳ぎ、一つの海の生物のようになっているので、目や耳という［⑤　　］がなくなり、［⑥　　］全体で音や景色を感じている様子を表している。

ア 体　イ 見る　ウ 話す　エ 聞く
オ 区別　カ 一体　キ 混乱

5 この詩で用いられている表現技法を次から**全て**選びなさい。

ア 擬人法　イ 直喩　ウ 隠喩
エ 脚韻　オ 倒置法

□

主題理解 次の問いに答えなさい。

この詩はどのような情景を詠んだものか、説明しなさい。